

D 国 語 問 題

注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒芯のシャープペンシルで記入することになっています。
黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は16ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 六 この問題冊子は持ち帰ってください。
- 七

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①	
○	1
○	2
●	3
○	4
○	5

(3と解答する場合)

※

大問一・二については著作権の関係により掲載できません。
引用した文章は次の通りです。

- ・大問一 佐藤文香『女性兵士という難問——ジェンダーから問う戦争・軍隊の社会学』
- ・大問二 金塚貞文『眠ること 夢みること』

三 左の文章は、蹴鞠をお家芸としていた飛鳥井家の当主雅有が、鞠の師匠としての日常を記した『春の深山路』の三月の記事の一節である。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

六日、内裏の御鞠あり。人数なくて、あいなし。⁽¹⁾夜べになりて、月朧にて、殊に艶ある夜なりとて、女房たち一両、男一両、毘沙門堂、持明院殿まで駆け歩く。女房、男、連歌もはべりしやらむ、忘れはべりて書かず、口惜し。花の枝、手ごとにまでこそなけれど、折りて帰り参る。

七日、花山院の右府入道の栗田口の山荘へ新院御幸なるとて、御鞠あるべし。参るべしとて、入道のもとよりも、また奉行重清がもとよりも使ひあり。足を損じて参らず。

今日は殊に風荒し。明日とも頼まれぬ風の前の花なり。⁽²⁾昨夜の名残も堪へがたし。⁽³⁾限りの梢ゆかしなど、女房の中より申し出ださるれば、昨夜なかりし殿上人ども、今日見ざらむには、この春はさてこそはとて、この翁一人を何のゆゑとなく責め居たり。今日は御人少ななり。なまかりそとて、御連句の座に能発の尉を召し置けとて、捕えられて祇候したり。残りの者ども、季顕朝臣、業顕等、いかがして、とやうやうに申す。雅藤、職事なれど、⁽⁴⁾⁽⁵⁾⁽⁶⁾⁽⁷⁾⁽⁸⁾好き心殊にある者にて、御連句に候ふも、心そらなり。⁽⁹⁾俊光も執筆するそらもなし。⁽¹⁰⁾

やうやうにして逃げ出でて、女房にこの翁の車を参らす。隆氏朝臣車に混み乗りて、千本へ行く。暮るる程の花の色いとおもしろし。さるほどに、雨おびたしく降る。いづくよりか尋ね出でたりけむ、傘を一つ求め出でたり。「濡るとも花の陰にこそ」とて、なほ去らずしばこそあれ、あまりなれば、「濡れじと傘の下に隠れむ」といひて、走り入りぬ。その後、人々皆かがまり立てり。雨止みげもなく降れば、長老のもとへ女房車やり入れて、下ろしつ。晴間待つ程、いさ^(b)申させて聞かむとて、僧どもそそのかして、釈迦念仏一時、礼讃一時、申さず。その程にぞ晴れぬる。^(c)この雨は、花のためは憂けれど、菩提の種とはなるらむなど、女房も興に入りて申さる。思ひ出でなるべし。⁽¹¹⁾

(注) 1 一両——牛車一台のこと。

2 花山院の右府入道——藤原定雅のこと。このとき前右大臣で、六十三歳。

3 新院——龜山院のこと。 4 能発の尉——才氣^{かんぱつ}煥発の老人の意味。

5 職事——藏人のこと。 6 執筆——連歌・連句を記録する係。

7 隆氏朝臣車——隆氏朝臣の車、の意。 8 千本——千本釈迦堂（大報恩寺）がある。

9 濡るとも花の陰にこそ——「桜がり雨は降りきぬ同じくはぬるとも花のかげに隠れむ」〔拾遺和歌集〕春 読人しらずを踏まえる。

10 長老——千本釈迦堂の長老のこと。

問

(A) ——線部(1)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 思いやりがない 2 華美ではない 3 いとおしくない

4 おもしろくない 5 せわしない

(B) ——線部(2)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 昨晚見た名月に対する名残惜しさ

2 昨晚お会いした人々に対する名残惜しさ

3 昨晚見た桜に対する名残惜しさ

4 昨晚の趣ある雰囲気に対する名残惜しさ

5 昨晚楽しんだ連歌に対する名残惜しさ

(C) ——線部(3)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 今をかぎりの桜の梢をもう一度見たい

2 風に吹かれる木々の梢が折れないか心配だ

3 命のかぎりには咲く桜の梢を折り取ってきたい

4 この上なく珍しい品種の桜を見てみたい

5 残り一本となった桜の木を何とか救いたい

(D) — 線部(4)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 また皆で会うことはできないだろう

2 何とも風情のない印象で終わるだろう

3 このままもう桜を見られなくなってしまうだろう

4 筆者(雅有)から鞠の指導を受けずに終わるだろう

5 きつと女房たちと知り合う機会はないだろう

(E) — 線部(5)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 ひとつとなく 2 悪気なく 3 目的もなく

4 わけもなく 5 幾度いくどとなく

(F) — 線部(6)は誰のことをさしているか。最も適当な人物を、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 花山院の右府入道 2 新院 3 重清 4 雅藤 5 筆者(雅有)

(G) — 線部(7)の現代語訳を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(H) — 線部(8)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 万事に興味がわいてしまう者で

2 連句だけのことさら愛好している者で

3 誰よりも色好みの者で

4 風流心が特にある者で

5 行きすぎたいたずら心をもった者で

(I) ——— 線部(9)について。なぜそうなったのか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 じつは連句があまり好きではないから。

2 桜の花のことが気になって仕方ないから。

3 自分よりも下手な人たちの連句を記録したくないから。

4 翁が責められていることが気の毒だから。

5 まわりの人たちの風流心の強さにうんざりしているから。

(J) ——— 線部(10)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 あまり長居するわけにはいかないの

2 度を過ぎた風流心を反省したので

3 あまりに長く時が経過していたので

4 あまりに雨がひどいので

5 まわりの人を捲き込むわけにはいかないの

(K) ~~~~~ 線部(a)～(c)の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

1 尊敬 2 使役 3 受身 4 打消推量 5 打消意志

6 過去 7 完了

(L) 空欄□に入る言葉として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 念仏 2 連句 3 雑談 4 茶話^{さわ} 5 挨拶

(M) ——— 線部(11)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 桜の花を愛する身としては不本意だが
 - 2 桜を見続けられなかったのは腹立たしいが
 - 3 桜の花を散らすという意味では残念だが
 - 4 散りゆく桜の花にとつてもつらいだろうが
 - 5 桜を見られるのは今年が最後だと思ふと悲しいけれど
- (N) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
- イ 内裏での鞠の会のあと、人々は桜を愛^めで、全員で桜の枝を手折って帰ってきた。
 - ロ 筆者は亀山院の御幸に伴う蹴鞠の会に召されたが、雨と風の強さを理由に断った。
 - ハ 前夜に続けて女房たちが筆者を花見に誘うと、筆者は何とか抜け出してこれに応じた。
 - ニ 人々は古歌を踏まえたり、もじつたりしながら、雨の中での花見を楽しんだ。
 - ホ 雨は結果的に女房たちが仏縁を結ぶきっかけとなった。